

果樹カメムシ情報 第2号

平成21年8月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

1 現在の発生状況

(1) チャバネアオカメムシの予察灯およびフェロモントラップにおける誘殺数は現在少ない状況です(図1、2)。果樹園への飛来や果実の被害は確認されていません。

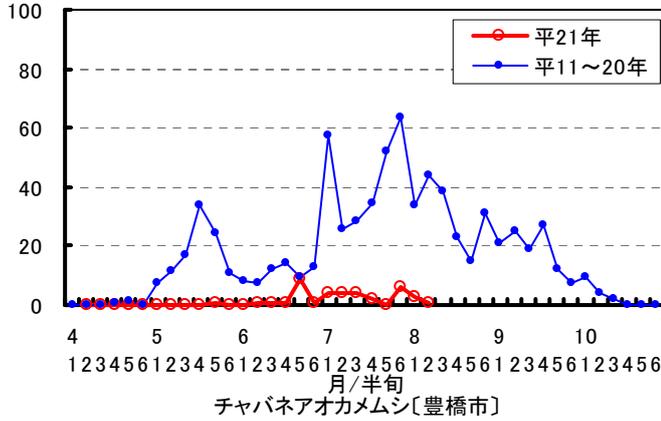


図1 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺状況

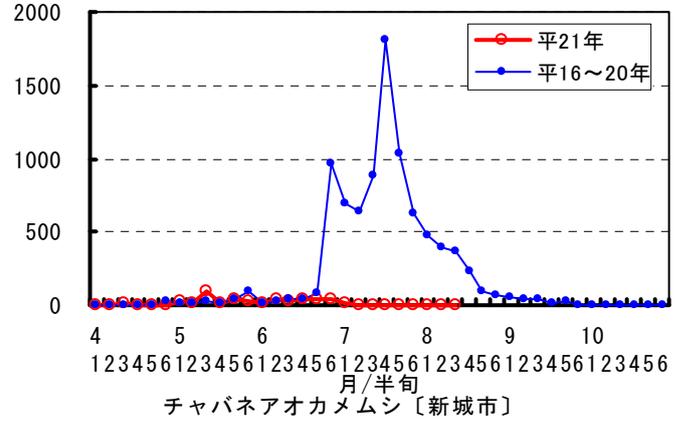


図2 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシ誘殺状況

(2) 8月上旬のヒノキ1結果枝当たりのチャバネアオカメムシ寄生虫数は、成虫(すべて新成虫)は0.4頭、幼虫は0.3頭でした(図3)。なお、これは過去8年間で3番目に多い状況です。また、8月上旬の口針鞘数は平均8.3個ですが、幸田町須美では15.8個と多い状況でした(図4)。

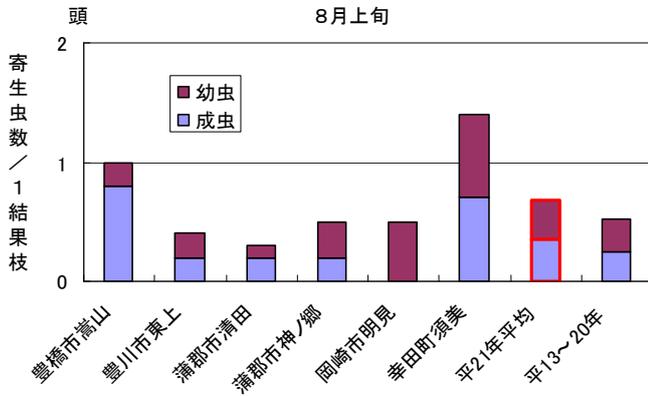


図3 ヒノキ結果枝における寄生虫数

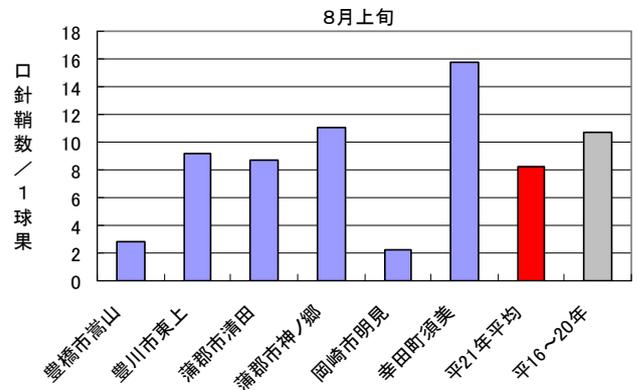


図4 ヒノキ球果における口針鞘数

2 今後の発生予測

- (1) ヒノキ結果枝には越冬世代成虫は見られず、すでに世代は交代しています。今後は、新世代成虫の飛来となります。
- (2) 現在のヒノキ結果枝寄生虫数はやや多く、球果着生量が平年並~やや多いため、今後発生する新成虫はやや多いと予測されます。
- (3) 果樹園への飛来時期はヒノキ球果の口針鞘数から9月上旬から9月中旬頃と推測されます(口針鞘数が25本になるとヒノキから離脱して果樹園へ飛来します)。しかし、幸田町須美では既に口針鞘数が多いことから8月中旬から果樹園への飛来が始まるおそれがあります。
- (4) 今後も、果樹園内をよく見て回り、果樹カメムシ類の飛来に注意しましょう。